子どもの主体的な学びを実現します

全ての教職員で進める授業づくり

子どもの問いを生かした「考える授業づくり」

問い

おや?どうして?
どうすればいいの?

学習課題

教科等固有の見方・考え方

個で **考えをもつ**

集団で **考えを広げ深める**

個で **考えを再構成する**

振り返り

～ができて，うれしかった！
比較すると，～に気付くことができた！
自分の考えが～から･･･に変わった！
～という新たな問いができた！
次は，～をやってみたい！

導入は短時間で！

児童生徒が生み出す問い
新たな出会いによって，“ずれ”や“隔たり”，“あこがれ”を感じさせるなど，児童生徒が問いを生み出すような手立てを講じよう。

児童生徒の問いを基にした学習課題
児童生徒から問いを引き出し，そのときの発言（気付きなど）を生かして，学習課題を設定しよう。

指導者が話しすぎず，児童生徒の思考の時間を確保します。

問いの解決に向けた“思考を促す発問”

考えるための技法を活用させる発問例

順序付ける	どれがより～でしょうか。
比較する	ＡとＢを比べて同じ（違う）ところはどこでしょうか。
分類する	どのように分けることができるでしょうか。
関連付ける	ＡとＢにはどのような関係があるでしょうか。 Ａが～なのは，なぜでしょうか。
多面的・多角的に見る	Ａの立場なら，どうでしょうか。 ～の面では，どうでしょうか。
理由付ける	なぜ，～なのでしょうか。 なぜ，そう考えたのですか。
具体化する	自分たちの周りで考えると，どんなものがあるでしょうか。

授業づくり見直しのポイント

- □ 児童生徒の学習意欲を喚起するように導入を工夫している。
- □ 教師が話しすぎず，児童生徒が自ら思考し，表現できるような言語活動を設定している。
- □ 目標を達成するため，必要に応じて協働的な学びの場を設定している。
- □ 多様な考えを引き出す問いの工夫をしている。
- □ 本時の目標に対応したまとめを，児童生徒の言葉で表現できるようにしている。
- □ 本時の目標を達成することが難しいと予想される児童生徒に対して，効果的な手立てを講じている。

“発問”見直しポイント！

- □ 何のための発問なのか，意図が明確である。
- □ どのような言葉で問うか，吟味されている。

児童生徒の反応を想定しながら発問計画を立て，学習指導案に位置付けましょう。
また，発問するときは，「話す速さ」「声の出し方」「間の取り方」「表情」など，児童生徒をひきつける工夫をすることが大切です。

「考える授業づくり」を進める上で大切な

全ての子どもが「分かる・できる」ための工夫例

《参考》竹野政彦・林香（平成28年）：「通常の学級における特別支援教育の考え方に基づいた授業づくりの研究－『主体的な学び』を促すユニバーサルデザインの授業モデルの開発を通して－」

【場の構造化】

○ **物の配置などを固定化して整理整頓し，教室内を機能化する。**
→指導者の指示がなくても準備等を行いやすくなる。
→刺激を調整することにもつながる。

（例）「調べコーナー」や「丸付けコーナー」の常設

【学習ルールの設定】

○ **発表の仕方などの学習ルールを子どもたちと共につくっていく。**
→発言しやすい。安心して活動できる。

【発表の仕方(例)】
（名前を呼ばれたら）
「はい，～だと思います。」
「わけは，～だからです。」
「みなさん，どうですか。」
「分かりました。」

【時間の構造化】

○ **見通しがもてるように単元や授業の流れなどを示す。**
→落ち着いて活動しやすい。

【学習の流れ(例)】
①あいさつ
②クイズ
③めあての確認
④教科書を読む。
⑤・・・
⑥・・・
⑦・・・

【学習内容の視覚提示】

○ **学習内容に関連した興味・関心のあるものなどの提示等**
→児童生徒の注意を喚起しやすい。

「市」の周りの９つの「レ」は，何を意味しているのかな？

【モデル･ヒント･観点･視点の提示】

○ **解決できるイメージがもてるようにモデルやヒントで視覚化する。**
→活動しやすくなる。
○ **観点や視点を示す。**
→考えたり話し合ったりしやすくなる。

（例）共通点は何かな？

【動作化・作業化】

○ **表現に気付き，理解を深めるために身体を使う。**
→相手の気持ちや状況を理解しにくい児童生徒が実感しやすくなる。

【肯定的な評価】

○ **取り組もうとしていることを，肯定的に評価する。取り組んでいることを，スモールステップで評価する。**
→意欲をもち，持続しやすくなる。
○ **自己評価・他者評価・相互評価等**
→できたことや課題を認識しやすくなる。

（例）ここができるようになったね。

【学習形態の工夫】

○ **ペアやグループによる話合い活動**
→積極的に意見を述べやすい。
→言語化することで思考を整理する。
→共有化することで学習を深める。

子どもの実態に沿って何のために行うのか，目的に応じて活用してね！

「考える授業づくり」の基盤となる

生徒指導の実践上の視点

※ 生徒指導の目的を達成するためには，児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要
※ 自己指導能力：児童生徒が，深い自己理解に基づき，「何をしたいのか」，「何をするべきか」，主体的に問題や課題を発見し，自己の目標を選択・設定して，この目標の達成のため，自発的，自律的，かつ，他者の主体性を尊重しながら，自らの行動を決断し，実行する力

【自己存在感の感受】

○ 「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を，児童生徒が実感することが大切
○ 自己肯定感や自己有用感を育むことも極めて重要

【共感的な人間関係の育成】

○ 支持的で創造的な学級・ホームルームづくりが生徒指導の土台
・ 失敗を恐れない
・ 間違いやできないことを笑わない。むしろ，なぜそう思ったのか，どうすればできるようになるのかを皆で考える

【自己決定の場の提供】

○ 自ら考え，選択し，決定する，あるいは発表する，制作する等の体験が何より重要
・ 授業場面で自らの意見を述べる
・ 観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等

【安全・安心な風土の醸成】

○ お互いの個性や多様性を認め合い，安心して授業や学校生活が送れるような風土を，教職員の支援の下で，児童生徒自らがつくり上げるようにすることが大切